



第6回九州ミッドアマチュア選手権競技

競技報告 (2016/ 10.19-20)

写真と記事 : M. Kikutake

通算5オーバーの149

荒川英二 (福岡雷山) が

4年ぶり3度目の栄冠

第6回九州ミッドアマチュア選手権競技は10月19、20日の2日間、北九州市の門司ゴルフ倶楽部(6761〒、パー72)で行われ、通算5オーバーの149で回った45歳、荒川英二(福岡雷山)が逆転で4年ぶり3度目の優勝を飾った。

荒川は初日、2バーディー、5ボギーの75で、連覇を目指した首位の平井皇太(奄美、33歳)に3打差、4位タイのスタートだったが、最終日は2バーディー、4ボギーの74。厳しいコース設定でスコアメイクに苦心する選手が続出する中で、手堅いゴルフを見せ、逆転勝ちした。

荒川は第1回、2回大会を連覇したあと、2、3回大会は2位と常に優勝争いに絡んでいたが、昨年は体調を壊し、15位タイと低迷。それも、わずか1年で復調してのタイトル奪取だった。(写真はV3を達成した荒川英二選手)



(C)GUK

タイトなコース設定

1打を争う白熱したゲームを逆転で制した荒川 2位には2年連続でベテランの大倉清(浮羽)

大会は25歳(12月末現在)以上が参加資格で、11県地区予選を通過した選手、シード選手ら137人が出場(欠場5人)した。

このところの天候不順も回復し、大会の2日間は曇り微風の好コンディション。距離はないもののホールをセパレートする松の木の張り出しや、狭く絞られたフェアウエー、くるぶしまで隠れる深いラフと久々にタイトなコースコンディションでの連盟主催競技となった。

そんな中、初日、2バーディー、2ボギーの72と好スタートを切った平井で、2位タイに並んだ津田敏茂(福岡、46歳)と、前回2位で雪辱を期して臨んだアマチュア界の第一人者の大倉清(浮羽、55歳=写真⑥)の2人に2打差をつけて首位に立った。さ



(C)GUK

らに1打差、4位タイに荒川のほか満潮辰一郎（志摩シーサイド、52歳）、榎隆則（大分中央、57歳＝写真⑤）がつけた。



12オーバーの70位タイまでの82人が進出した決勝ラウンドは、予断を許さない優勝争いになった。平井は5番バーディーの後、6番から4連続ボギー。それでも辛うじて荒川、大倉に1打リードで折り返した。しかし、後半も立ち直れずに4ボギー、1ダブルボギーとスコアを乱し、脱落した。浮上したのが荒川と大倉。ともに通算5オーバーで折り返し、荒川が11番ボギーのあと、12番でバーディーを奪った大倉が首位に立ったものの、15番で3パットなどで痛恨のダブルボギー。並んだ2人の一進一退で迎えた最終ホール、荒川がバーディーを奪って大倉を突き放した。

1打差の2位は大倉と、この日3バーディー、4ボギー、1ダブルボギーで75の榎。さらに3打差の9オーバーで平井が4位。5位は林田信男（若宮、45歳）で、6位タイにはこの日のベストスコアタイ74をマークした永田満（北山、53歳）が初日の31位タイから浮上したほか、儀保和（美らオーチャード、26歳）、江口信二（大博多、44歳）、野上英司（ミッションバレー、58歳）が入った。

日本ミッドアマは13人が出場権

この試合の結果、第21回日本ミッドアマチュア選手権（11月16～18日・山口県、宇部CC万年池東）13位までの13人（シードを含む）が出場権を獲得した。



「よくしのいだと思う。次はジャパンを取りたい」

難コースで4年ぶりの復活Vの荒川英二

試合後の表彰式でスピーチに立った荒川は、「1回目、2回目の優勝と違って、今回は大倉さんや平井君といったアマチュア界の主力選手が参加する中で勝てたのがうれしい」と言った。

九州アマ2勝どころか、2005年の九州オープンをアマチュアで制している大倉清。そして、昨年の九州ミッドアマ、その大倉に10打もの大差をつけてぶっちぎりで優勝した平井。最終組のその2人の一組前をラウンドした荒川が立てた作戦は、初日の結果から「フェアウエーが狭く、ラフが深い。入れたらワンペナ同然という厳しさ。74～75でパープレー同然」だから、「ラフからは無理しない。ラフからラフを渡り歩くよりバンカーの方がまし」というものだった。

無理をしない、チャンスが来たら攻める。前半1バーディー、2ボギーのあと、後半もボギーが先行。しかし、平井が崩れ、大倉が肝心のところでOBを打った。大倉と同スコアで迎えた最終18番（パー3）。ピン奥5㍍につけた。ギャラリーからの情報で、大倉が17番でOB（ボギー）を出し、並んでいることはわかっていた。荒川は下りフックラインをねじ込んだ。そして、最終組の大倉が8㍍を外してパー。荒川に栄冠が転がり込んできた。「今日はパッティングのラインが見えていた。よくしのいだし、我慢のゴルフだった」とは荒川だった。

北九州市の八幡西区でゴルフクラブ工房「あらかわGOLFスタジオ」を開く2児のパパ。常に優勝争いを続けていた荒川が昨年はけがに泣き、その反省から今年はクラブと上体の間隔を調整するスイング改造に取り組んだ。その結果、「スライスが出なくなった」そうだ。さらには、小1の長男の登校時、学校まで送るついでにウォーキ



ングにも取り組み、体重を6キ_ロ絞った。「おかげで飛距離も出るようになった」という。

今年、前週のインタークラブで所属する福岡雷山が初優勝したばかり。気分的にも上り調子で、この後の目標は「今年はジャパン（日本ミッドアマ）で優勝を目指します」と言い切った。（写真は18番で5位のパーディーパットを決め、ギャラリーにガッツポーズの荒川英二＝ゴルフタイムス社提供）

あと一歩及ばず2位タイの大倉清 「(3パットが4回)ショットが悪いから、どうしてもピンから遠いところに乗る。今年は勝たんといかんやった。詰めが甘いなあ、油断大敵」